

京都府立植物園 100 周年未来構想委員会（第 4 回）概要

日時：平成 31 年 1 月 29 日(火曜日)

午前 10 から正午まで

場所：植物園会館 多目的室

【出席委員】秋元委員、金田委員、下村委員、谷口委員、築山委員、野中委員、福村委員、藤本委員、前田委員

【事務局】田中副部長、嶋津課長、川崎担当課長、戸部園長、西原副園長、岡垣課長、齊藤課長

1. 議題

(1) 京都府立植物園 100 周年未来構想(仮称) (案) について

2. 主な意見

- 温室の改修にあたっては、熱源は何にするのか、供給が止まった場合はどうするのか、補助暖房として何が必要なのかということなど、植物を守ることを意識して「設備」という二文字を加えていただきたい。
- 植物が主役という理念のもとでの魅力発信について、方向性やターゲットを設定した方が良いのではないか。
- 構想を実現していくために求められるものは、運営や管理の労力だけではなく企画力だと思う。取組の方向性においても管理運営に「企画」という文言を入れることによって、ソフト、ハード面の整備や民間のアイデアやノウハウの活用、情報発信などにもつながると思う。
- 多言語対応の記載があるが、展示や広報、情報発信、ガイドやワークショップなどをまとめて、インバウンド対策として項目立てしてもよいのではないか。
- 北大路駅から正門への誘導がわかりづらいということの対応として、「空間づくり」だけでは言葉足らずかと思う。
- エネルギーに関する記載がない。エネルギーの循環についても書き込む必要があるかと思う。
- 地域等との連携について、「北山文化環境ゾーン」という言葉だけではなく、ゾーンにつながる地域の商店街や隣接する地域との関係性の言葉が抜け落ちているかと思う。
- 植物園はこの異空間、空気感を求める来園者が多いと思う。旧総合資料館のエリアは大事だが、植物園に何かを建てる必要はないと思う。100

周年までの4年間で少しずつ、職員の服装やトイレの整備など確実に
いい、小さなことから取り組んでいけば良いと思う。

- この構想は数値目標がない。数値目標を掲げてしまうと、数字だけを追
うことになりかねないという懸念があり、構想段階で数字が入っていない
ことは良いこと。今後の植物園の自発的なフリーハンドの可能性を活
かせるという意味で非常によいと思う。
- 評価は必要。現状の87万人の状況を認識し、構想の基調として、リ
ピーターの満足度を高め、新たな層の確保やインバウンド対策などを行い、
結果として入園者が増加することを想定しているの、最初に入園者を
増やす前提でそのために何をやるかということではなく、あくまでも理
念としては、植物が主役である植物園というものの価値を大事にしてい
きたいということだと思ふ。来園者については、リピーターの満足度を
高める、幅広い層から来ていただくということが大事で、そこをしま
り踏まえた上で、具体的な来園者の目標をどうするかということは、ハ
ード整備やサービスの提供方法を考えていかなければならない。一般的
にサービスのレベルが現状のままで来園者が増えれば、満足度は下がる
事は当然予想される。そうならないために想定は必要。本構想は、具体
的な数字を挙げるのではなく、むしろ質的な目標をしっかりと持つこと
だと思ふ。
- 入園門での職員の対応や印象が非常に大事だと思ふ。入園門の職員や植
物園の職員は、お客様をお迎えするスタッフだと思ふ。その感覚を是非
皆さんに持って頂きたい。もっともっと来園者の方をお客様という風
に感じて欲しいと思ふ。
- 企画力というのは今後大事になると思ふ。SNSの発信で10万人以上の
フォロワーがいても入館者数に結び付いていないという実態がある。4
年後には入館者数に直結するSNSが出来ているとよいと思ふ。それも
一つの企画力かと思ふ。
- 台風21号による倒木を見せていくということについて、「ナースログ」
という言葉がある。森の看護師という意味で倒れた木に虫が湧いて、鳥
がきてまた土に帰るといふ輪廻転生、無駄な物は一つも無いということ。
今から行くと2024年には素敵なナースログコーナーが出来上がると思
ふ。植物があるがゆえに鳥も集まり、様々な生き物も集る、そしてそれ
を撮影される方々が来る。本当にすてきな公園になると思ふ。
- 取組を推進する上での留意点のところ、環境に配慮する視点、北山文
化環境ゾーンも視野に入れた園の運営のなかでの環境への配慮という
観点も重要だと思ふ。

- 委員会としては最終調整を見据えて、全体の現状認識や課題の大きな方向性については共有できている。
アクセントが必要との意見があったが、構想としては全般的な内容、体系の中身なので表現は抑制して、全体に平板な形にあえて表現されているというところがあると思う。
最終的には包括的ではあるが、強調するようなニュアンスが、可能なところ、無理のないところがあれば、最終調整で加えたいと思う。
さらに、具体的に環境への配慮の観点や、インバウンド対策、国際的な観光の変化などは必要な視点だと思うので、分かりやすい形で加えたい。
この基本構想案をベースにして、植物園が、より具体的な計画に進んでいけるよう取り組み例に関わる場所は盛り込んでいき、まとめさせていただくということでご理解いただければと思う。